



令和7年度 第1回 新栄高等学校学校運営協議会 議事録

開催日：令和7年7月3日（木）16:00～16:55

議 題：令和7年度学校評価（目標設定）等についての意見聴取

出席者：学校運営協議会委員6名（欠席1名）＋校長、副校長、教頭、事務長

○令和7年度学校目標、学校運営協議会年間計画等の確認と意見聴取

	意見・質問・感想等
委員 A	・学校との連携について、校内清掃にボランティアを派遣する準備がある。地域の方の単発のボランティア活動としてはいかがか。
委員 B	・ボランティアには、P T A も一緒に活動をさせていただきたい。役員等に声掛けをし、募っていききたい。
委員 C	・計画されている事業が、職員に浸透していると感じた。生徒の反応を見て、好奇心をくすぐるような取り組みをさらに進めていただきたい。
委員 D	・環境の課題や生徒の課題が年間計画によく組み込まれている。大学も高校同様に、所属学生のルーツが多彩になってきている。同じルーツの学生が集団で固まってしまうことが課題である。
委員 E	・学校と地域の課題がうまく組み込まれた計画になっている。地域と学校が関わりやすく、厚みのある教育につながるのではないか。 ・新栄に入学する生徒には、在県枠だけでなく、一般枠にも外国籍の生徒が在籍している。今後は国籍で区別されない、「インクルーシブ」「ダイバーシティ」といった言葉に表されるような学校づくりへの流れは避けられない。この流れを推し進めることで、多文化教育に関心を持つ生徒も集まり、結果として、国籍に区別されない生徒が集まるようになるのではないか。
委員 B	・ i P a d を有効活用していることで、授業後に内容を見返すことが出来る。板書が原因で授業進行についていけなくなることはなく、とても良い。 ・誰ともつながっていない生徒は、声をあげることもできない。ひとりにさせないことが重要である。
委員 F	・テスト期間等だけではなく、年間を通して新栄生が地区センターによく来る。午前中から来ている生徒もいる。 ・学校は開かれたダイバーシティな環境であるが、地区センターも同様に幅広い世代が利用している。学校も地区センターも様々な世代や多様な人が共に活動できる何かの仕組みがあると良い。

第1回地域連携部会 16:55～17:00

☆学校より

- ・地域連携の一環として、都筑消防署北山田出張所の所長をお招きし、A E D 講習会を開催した。応急処置についてご講義いただくとともに、地域の情報交換を行うことが出来た。
- ・東京横浜独逸（ドイツ）学園と、バレーボールやバスケットボールの部活動交流を行っている。授業交流や、管理職の卒業式への参列等、様々な交流が行われるようになった。
- ・異文化理解に関連して、昨年度より韓国・台湾との相互訪問交流を開始し、今年度は訪問団を派遣する予定である。また、夏期講習では、現地の高校生とのオンライン交流や大使館等を訪問する。（昨年度は、韓国ボラム高校、台湾溪湖高校を迎え、交流した。）